

エクスマス紀行

エクスマスは西オーストラリアのパースから北へ飛行機で1時間20分の場所にあり、サンゴ礁の豊かなニンガルリーフ沿いにある小さな町です。

ジンベエザメ(Whale Shark)は一般的に、海外リゾートのプロダイバーが毎日潜って、一生に一度会えるか会えないかと云う大変貴重な魚です。大きいものは雄で約18mにもなる世界最大の魚類で、生態、生息域、回遊ルート、回遊サイクル等解明されていない点が多く、まだまだ未知の部分が多い生物です。

エクスマスは毎年3～5月に必ずジンベエザメが現れることが1970年代後半にオーストラリアの海洋学者によって発見された大変貴重な場所です。

理由は海流と陸地の形状関係及び海底の地形がジンベエザメの餌となる動物性プランクトン(カニやエビの幼生)及びサンゴの卵(毎年3月、4月の満月の数日後、珊瑚が一斉に産卵する)が滞留し易く、豊富にあるからと言われていました。

ジンベエザメの搜索方法は大変スケールが大きく、アクション映画さながらです。セスナでパイロットが探し、発見すると無線で大型クルーザーへ位置を連絡して追いかけて、ジンベエザメを肉眼で発見するとクルーザーから船外機付きゴムボート「ゾディアック」へ乗り移り、ジンベエザメの前回りをして海に飛び込み待ち伏せする方法です。

1日約4時間、11時頃から15時頃まで昼食を入れながら、ジンベエザメが現れるのを待ち、現れると食事中でも皆んな一斉にゾディアックへ飛び乗って、必死にスノーケルで追いかけます。

SCUBAから出る泡をジンベエザメが嫌うため、基本はスノーケルで体力が尽きて離されるまで水面を追いかけます。但し、非常に速いのでアツと言う間に離され、ボートに迎えに来てもらって、ピックアップされて再度追いかけます。これを十数回繰り返すので、体力だけが勝負のかなりハードなものになります。

当時の私の撮影機材はタンクの空気を必要とする水圧中和理論で製作されたステンレス製の特殊なハウジングでしたので、特別にタンクの使用を許可され、SCUBAで水中撮影をすることができました。しかし、只でさえスノーケルでもかなりハードなため、ダイビング機材と撮影機材を持って、1日に10回以上も小さなゴムボートからエントリー、エキジットをするのは非常に過酷なダイ・ハード・ダイビングで、一般的なボートダイビングの5倍以上のPOWERが必要で、これを4日間繰り返して撮影し、海の中はジンベエザメだけを編集して制作したものです。

現地ダイビングショップオーナーのトニーの評価では、今まで各国の放送局が撮影に来ましたが、私の映像が『世界一長い映像』で、イギリスのBBC放送局も見てかなり評価したそうで、『大変誇りに思う』との感想でした。

あとがき

この映像は1994年の撮影で世の中にデジタルビデオカメラがまだ無い時代のため画質がデジタルより悪く、撮影技術や編集技術が現在よりもレベルが低いです。

また、このビデオには魚が一種類しか映っていません。

それはジンベエザメで西オーストラリアのエクスマスで撮影し、私のプライベート名刺に、ここのジンベエザメと私が印刷されています。

撮影した水中カメラマンは2006年9月のテレビ番組『情熱大陸』に出演した鍵井プロで、当時はまだアマチュアでした。

この魚は一生に一度、見れるか見れないかと言う非常に貴重な世界最大の魚です。海遊館では簡単に見れますが、あそこのジンベエザメは人間で言うと小学生ぐらいで、私が撮影したのは10m以上の成人です。

ジンベエザメだけのビデオのため、これを観たダイバーは『ゲップが出るくらいジンベエザメを観た』と大変贅沢なことを言います。

エクスマスのダイビングショップにはオーナーのトニーさんが撮影したジンベエザメと私のツーショットがパンフレット、ポスター、絵はがきになって売られています。

次回は画質の良いハイビジョンビデオカメラで再度、スクーバで撮影に挑戦するつもりです。

以上
浜谷 優